

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—112010

⑤ Int. Cl.⁸
F 16 B 15/08

識別記号

庁内整理番号
7812—3 J.

⑬ 公開 昭和59年(1984) 7 月 28 日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 連結型ステップル

茨城県鹿島郡波崎町柳川4120—
31 鹿島電設内

① 実 願 昭57—187787

⑦ 出 願 人 友常武久

② 出 願 昭57(1982)12月11日

茨城県鹿島郡波崎町柳川4120—

③ 考 案 者 友常武久

3 鹿島電設内

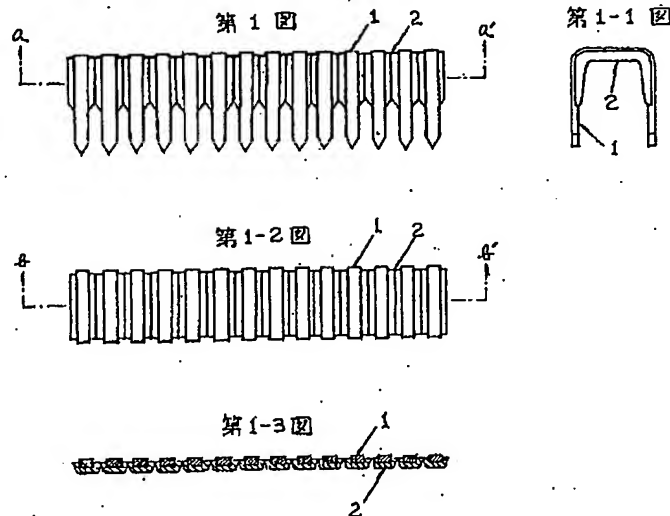
⑮ 実用新案登録請求の範囲

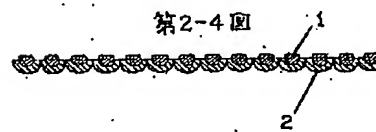
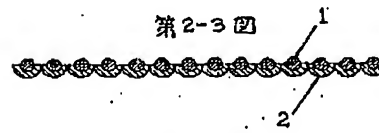
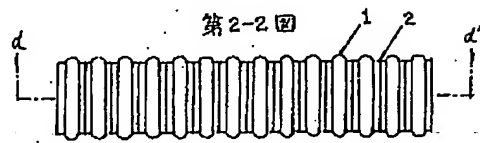
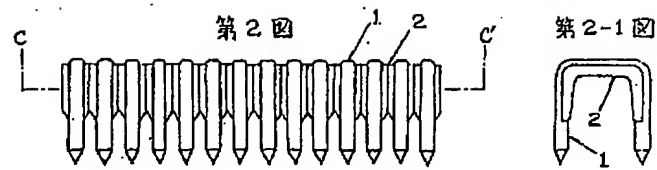
所要の個数のステップルを連結させた連結型ステップル。

図面の簡単な説明

第1図から第2—4図までの図面はそれぞれ次のものを示している。第1図：第1実施例の側面図、第1—1図：第1実施例の正面図、第1—2図：第1実施例の平面図、第1—3図：a-a'、及

びb-b' 断面図、第2図：第2実施例の側面図、第2—1図：第2実施例の正面図、第2—2図：第2実施例の平面図、第2—3図：第2図のC-C' 断面図、第2—4図：第2—2図のd-d' 断面図。以上の図面に使用した数字1は金属製のステップル本体、数字2は被覆物をそれぞれ示している。





公開実用 昭和 59—

112010

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—112010

⑮ Int. Cl.³
F 16 B 15/08

識別記号

庁内整理番号
7812—3 J

⑯ 公開 昭和59年(1984) 7 月28日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑰ 連結型ステツプル

茨城県鹿島郡波崎町柳川4120—
31鹿島電設内

⑱ 実 願 昭57—187787

⑲ 出 願 人 友常武久

⑳ 出 願 昭57(1982)12月11日

茨城県鹿島郡波崎町柳川4120—
3 鹿島電設内

㉑ 考 案 者 友常武久

明 細 書

1. 考案の名称 連結型ステッフル

2. 実用新案登録請求の範囲

所要の個数のステッフルを連結させた連結型ステッフル。

3. 考案の詳細な説明

この考案は、ステッフル打込機に使用するための連結型ステッフルに関するものである。

(1) 最近、電気工事等に使用するステッフルを連続して打ち込むことができるステッフル打込機が開発されたが、これまでの1個づつばらばらのステッフルを使用していたのでは、ステッフル打込機にステッフルを挿入するのに手間がかかり、非常に苦勞していた。

この考案は、従来のものがもつ以上の様な欠点を除去した連結型ステッフルを提供することを目指す。

この考案の構成を図面を参照しながら以下に説明する。

第1図はこの考案の第1実施例の側面図、第1

(1)

— 1 図は正面図，第 1—2 図は平面図，第 1—3 図は $a-a'$ 及び $b-b'$ 断面図をそれぞれ示している。

これは，第 1 図に示す様に，金属製のステッフル本体 1 がそれぞれ平行になる様に，所要の個数のステッフルをその被覆物 2 が接する部分で連結したものである。

この第 1 実施例においては，第 1—3 図に示す様に，金属製のステッフル本体 1 は，その断面形状が長方形の板状のものを使用している。

連結型ステッフルの断面図第 1—3 図に示す様に，それぞれの被覆物 2 は，鋭角になった端部で互いに接しているので，この部分を連結してもその接着面積が非常に小さいので，小さな衝撃を加えれば簡単に切り離すことができる。

即ち，この連結型ステッフルをステッフル打込機に挿入して 1 個ずつ打ち込む時に，簡単に剥離する程度に連結しておけばよい。

この連結方法は次のうちどれでもよい。

(A). 頭部のみを連結したもの。

(2)

(b). 両側面のみを連結したもの。

(c). 頭部、及び両側面を連結したもの。

(d). 上記の a, b, c の各方法において、点線状に連結したもの。

第 2 図はこの考案の第 2 実施例の側面図、第 2-1 図は正面図、第 2-2 図は平面図、第 2-3 図は C-C' 断面図、第 2-4 図は d-d' 断面図をそれぞれ示す。

この第 2 実施例は第 2-3 図に示す様に、金属製のステッフル本体 1 に、その断面形状が円形のものを使用したものである。

この構成、及び機能は第 1 実施例の場合と同じである。

以上に述べた第 1 実施例、及び第 2 実施例において、連結するステッフルの個数は図面に示したものに限らず、必要な任意の個数を連結すればよい。

又、被覆物 2 の形状も図面に示したものに限りず、F ケーブル等の保護さえできればどのような形状でもよい。

以上に説明したこの考案の連結型ステッフルを使用すれば、ステッフルをステッフル打込機へ挿入するのが非常に簡単になるので、従来の欠点はすべて解消される。

4. 図面の簡単な説明

第1図から第2-4図までの図面はそれぞれ次のものを示している。

第1図	第1実施例の側面図
第1-1図	第1実施例の正面図
第1-2図	第1実施例の平面図
第1-3図	a-a', 及び b-b' 断面図
第2図	第2実施例の側面図
第2-1図	第2実施例の正面図
第2-2図	第2実施例の平面図
第2-3図	第2図の c-c' 断面図
第2-4図	第2-2図の d-d' 断面図

以上の図面に使用した数字1は金属製のステッフル本体、数字2は被覆物をそれぞれ示している。

実用新案登録出願人

友常武久

(4)

